

Corporate
Social
Responsibility
REPORT

CSRLレポート
2013



Contents

| | |
|---------------------|----|
| ■ 会社概要 | 2 |
| ■ トップメッセージ | 3 |
| ■ 社会の中のニチアスグループ | 5 |
| ■ 特集 ニチアスのBCPへの取り組み | 9 |
| ■ CSR活動への取り組み | 12 |
| ■ コーポレートガバナンス | 13 |
| ■ お客さまとのつながり | 14 |
| ■ 株主・お取引先とのつながり | 15 |
| ■ 社員とのつながり | 16 |
| ■ 地域社会とのつながり | 17 |
| ■ 社会とのつながり | 19 |
| ■ 環境への取り組み | 20 |
| ■ 環境マネジメント | 21 |
| ■ 環境パフォーマンス | 23 |
| ■ 製造事業場の環境改善活動 | 25 |

編集方針

ニチアスグループは、2004年度から「環境報告書」を発行してまいりましたが、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、本年度よりCSR (Corporate Social Responsibility) レポートとして発行することといたしました。

本レポートでは、前半部分で社会性報告を、後半部分では前年に引き続き当社グループの環境活動を紹介しています。

また、2011年の東日本大震災を機に重要性がより高まっているBCP(企業活動の継続)に関しては、特集として当社グループの取り組みを取り上げています。

なお、本レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポートニング・ガイドライン第3.1版」および「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」(環境省)を参考にしています。

報告範囲

本レポートに記載したCSR活動の報告範囲は、下記項目を除きニチアスグループ全体を対象としています。

- ・「社員とのつながり」(P16)の実績データはニチアス単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P20~26)は、プラント向け販売・工事業および建材事業の工事部門の施工に関するデータを除いております。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1: 鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場
注2: ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社

報告期間

2012年4月1日~2013年3月31日

次回発行予定

2014年9月

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては、その後の事業環境の変化により将来に関する予測・計画と異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

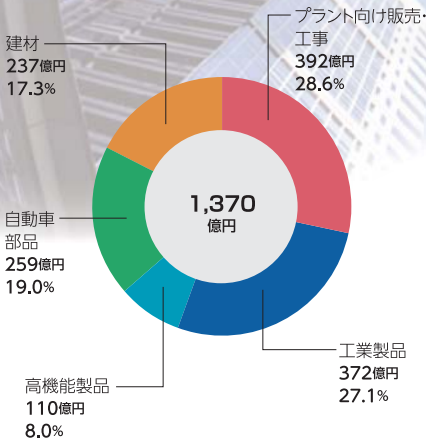
※本冊子中の製品名はニチアス(株)の登録商標です。

会社概要

「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します。

事業分野

事業分野別売上高比率 (2013年3月期)



プラント向け販売・工事業業

極低温から超高温に至る領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



LNGタンク

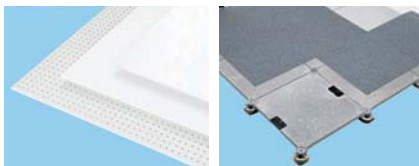
各種プラント施設

会社概要

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
設立 1896年(明治29年)4月9日
資本金 92億8,357万202円
 (2013年3月31日現在)
代表者 代表取締役社長 矢野 邦彦
従業員 連結:4,665名/単独:1,614名
 (2013年3月31日現在)
本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに寄与しています。



不燃内装材

フリーアクセスフロア

工業製品事業

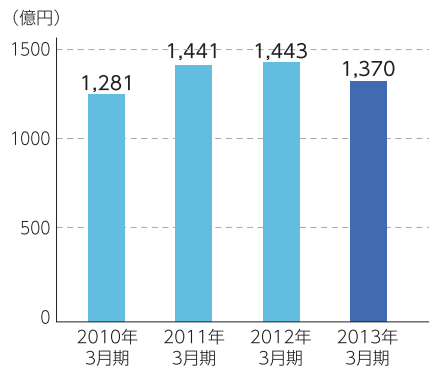
装置機器、環境、食品、医療、石油精製・石油化学、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材

うず巻形ガスケット

売上高推移 (連結)



自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品や技術を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット

ヒートインシュレーター

高機能製品事業

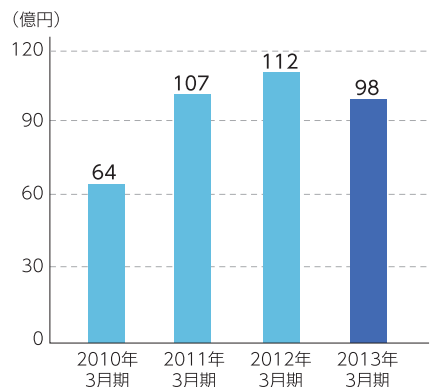
技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野の中で、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ

ゴムリング

経常利益推移 (連結)



ニチアスは企業の社会的責任を果たし、 ステークホルダーの皆さまのご期待に お応えしてまいります。

ニチアスは1896年(明治29年)、我が国における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートし、以来117年間、我が国の発展とあゆみをともしながら、さまざまな産業分野へ、当社グループの基盤技術である「断つ・保つ」技術を軸とした製品とサービスを提供してまいりました。

当社グループの企業理念である「ニチアス理念」は、「ニチアスは、『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献する」ことを謳っています。これは、当社グループが極低温から超高温まで、液体・気体をはじめとするさまざまな対象物に対して、漏れ・熱・音・腐食などを「断つ」機能や、熱・クリーンを「保つ」機能をもった製品・サービスを提供することで、幅広く、さらにグローバル規模で継続的に社会へ貢献していくことを表明したものです。

当社グループの企業理念がめざすところは、すなわち、私どものCSR活動の目標でもあり、当社はその事業活動を通して持続可能な社会の実現に寄与し、お客さま、株主・投資家の皆さま、社会の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さまからの信頼と期待にお応えする企業であり続けることをめざしています。

また、当社グループは企業の社会的責任を果たすべく「お客様から信頼され、誇りを持って働ける会社」という経営ビジョンを掲げ、以下の重要課題を進めています。

- ・コンプライアンスの厳守
- ・企業価値の向上とステークホルダーのみなさまとの価値の共有
- ・グローバルな事業運営の推進
- ・明日を担う人材の育成と登用
- ・リスクマネジメントの強化

これらをはじめとする諸課題にどのように取り組んできたかを、当「CSRレポート」によって、ステークホルダーの皆さまに広くご報告することで、皆さまとのコミュニケーションの一助としていただければと考えております。

当社グループはこれまで環境報告書という形で、環境面でのさまざまな取り組みに関して報告してまいりました。本年からは、報告の対象範囲を広げ「CSRレポート」としてお届けいたします。本レポートに関し、皆さまからの忌憚なきご意見をいただければ幸いに存じます。

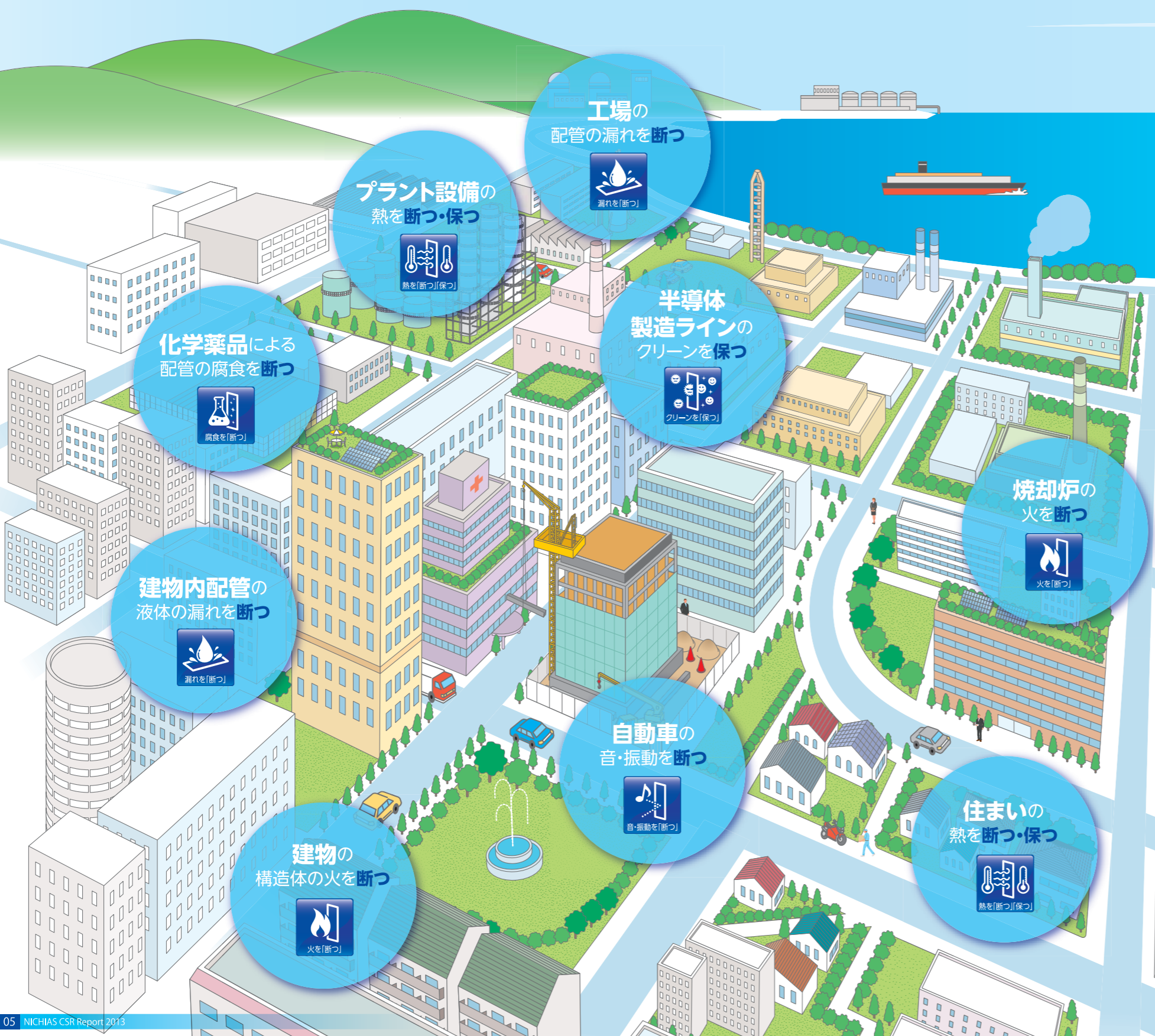


代表取締役社長

矢野邦彦

ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術を軸に、 さまざまな産業の発展に貢献しています。

ニチアスグループの「断つ・保つ」の技術は、発電所や各種プラントなどの施設はもとより、オフィスビルや一般住宅、さらには自動車や電車など多彩な施設・設備・機器の中で確かな存在感を発揮することで、さまざまな産業の発展に大きく貢献しています。



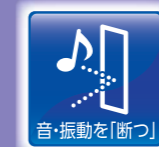
シール技術

各種プラントや工場にある配管の接合部から流体の漏れを断つガスケットやパッキンなどのシール材を供給しています。



断熱技術

各種プラントの配管、LNG(液化天然ガス)タンクなどを保温・保冷する技術を駆使することで、省エネルギーやCO₂の排出量削減に貢献しています。



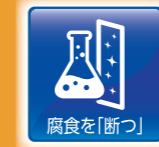
防音技術

自動車のエンジンや工場から出る騒音、自動車のブレーキからの振動を低減することで、静かで快適な環境の実現に寄与しています。



耐火技術

工業炉や焼却炉あるいは建物などにおいて構造物にダメージを与えるような高い熱を遮断。熱による構造物の劣化を防いでいます。



耐食技術

長年にわたり培ってきた独自の加工技術から生み出される各種ふっ素樹脂製品が、化学薬品による腐蝕や汚染を防ぐことで、産業の高度化を支えています。



クリーン技術

製造工程において高い清浄度が要求される半導体分野を中心にクリーンを「保つ」各種製品を供給しています。

ニチアスグループの独自技術から生まれた製品は、 多彩な分野で省エネ・省資源や快適性をご提供しています。

例えば、発電所プラントのエネルギー使用量の低減、半導体製造領域の大気汚染防止や使用エネルギーの抑制など、多彩な産業分野をはじめ、自動車の騒音防止や燃費向上、ビルや住宅のエネルギーロス低減やリサイクル製品を活用した建材など、ニチアスグループの製品は、産業・生活に広く浸透し、省エネ・省資源をはじめとする環境負荷低減や快適性をご提供しています。

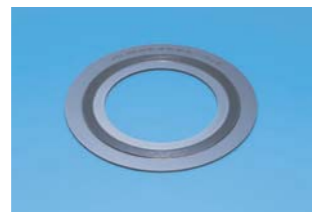
火力発電所で

我が国の電力供給は、東日本大震災を境に火力発電が約9割を占めており、火力発電所は現在の我が国の産業や生活の根幹を支えている施設です。火力発電所では燃料となる極低温のLNG（液化天然ガス）の貯蔵から高温・高圧のガス・蒸気を通る配管・ダクトが多数あり、これらの保温、保冷、シールに当社製品が活躍しています。



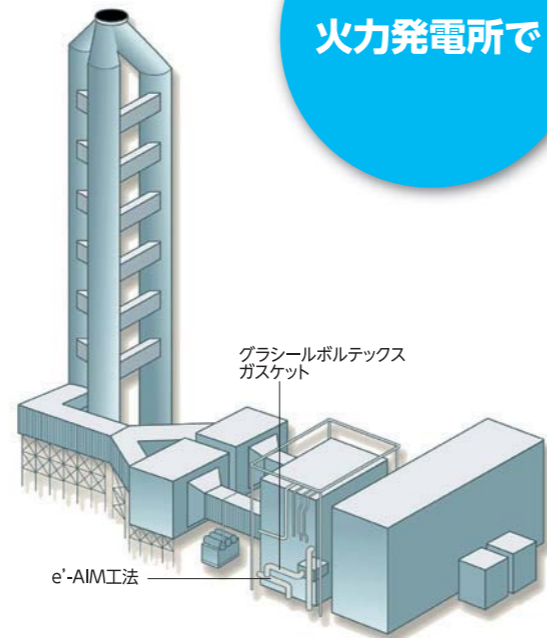
**保温機能回復工法
[e'-AIM®工法]**

劣化した既設保温材を取り外すことなく、上から保温材を重ね巻きして低下した保温性能を回復させる保温機能回復工法です。



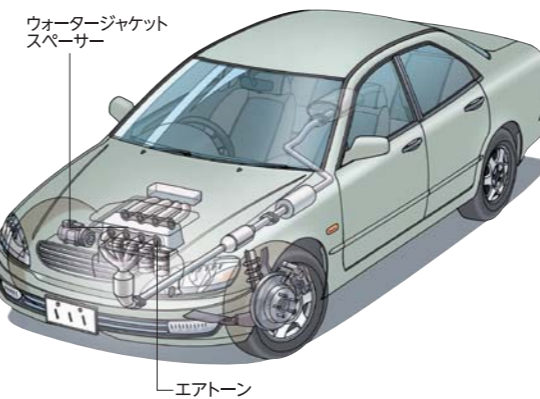
**うず巻形ガスケット
[グラシール®ボルトテックス®ガスケット]**

各種配管のフランジ、バルブ、機器などに使用されるうず巻形ガスケットです。



自動車で

移動や輸送の手段として、またはレジャーを楽しむうえで、自動車は私たちの生活の中でなくてはならないものです。また、化石燃料消費の抑制や大気汚染、地球温暖化防止という課題に対して、各自動車メーカーは排気ガス削減や燃費の向上に日々取り組んでいます。当社の自動車部品は防音性や耐熱性、シール性能に優れ、自動車の性能向上を支えることで快適なカーライフに貢献しています。



「ウォータージャケットスペーサー」

エンジンのウォータージャケット部に挿入し、冷却水の流れを制御することでシリンダー壁の温度を均一化し、ピストンとシリンダー間のフリクションを低減させる樹脂製の機能部品です。燃費向上に貢献します。



**超軽量防音カバー
「エアトーン®」**

吸音するPETフェルト層と遮音性をもつ特殊処理不織布を重ね合わせた、軽量かつ防音性に優れた新発想の不織布被覆防音カバーです。

半導体製造設備で

液晶テレビやパソコン、スマートフォンなどの登場は私たちの生活をより豊かにしています。これら電子機器製品の進化を支えているのが半導体部品です。半導体部品を製造する設備では、耐薬品性・純粋性など厳しい条件が求められます。このような場面でもふっ素樹脂製品をはじめとする当社製品が活躍しています。



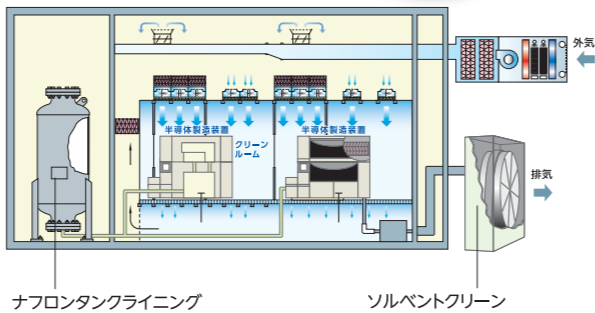
**ふっ素樹脂製薬液貯蔵タンク
[ナフロン®タンクライニング]**

半導体製造に使用する薬液を貯蔵するふっ素樹脂製ライニングタンクです。



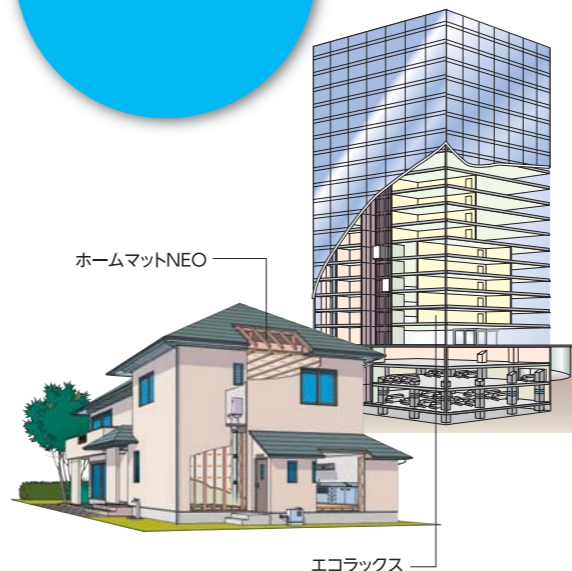
**低濃度有機溶剤濃縮装置
[ソルベントクリーン®]**

半導体製造装置から排出される低濃度有機溶剤を濃縮する装置です。



ビル・住宅で

東日本大震災を契機に住宅・建築物における省エネルギーに対する意識が高まりました。当社は冷暖房エネルギーの効率化による省エネルギーに寄与する住宅用断熱材や、優れた不燃・耐火性能をもつ各種ビル用建材を取り揃え、安全で快適な住環境づくりに貢献しています。



**住宅用ロックウール断熱材
「ホームマット®NEO」**

天井・壁・屋根の断熱材として使用される住宅用断熱材です。室内外からの熱の出入りを抑制し、建物のエネルギーロスを抑えます。



**不燃内装材
「エコラックス®」**

けい酸カルシウム板として初めてエコマーク認定を取得した環境配慮型不燃内装建材です。

The background of the page is a collage of various industrial and office-related images. At the top left, there is a large offshore oil or gas platform in the water. To the right, there are abstract blue lines and curves. Below these, there are images of various mechanical parts like gaskets and seals. In the middle right, there is an aerial view of a city or industrial complex. Below that, there is a photo of a busy office with many people working at desks. At the bottom, there are images of large industrial tanks and a large indoor facility with a grid-like ceiling.

特集

ニチアスの BCP [事業継続計画] への取り組み

ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術を基盤とした幅広い製品をお客さまに提供し、事業活動を展開しています。これらの製品の中には、お客さまにとって「なくてはならない製品」が数多くあり、製品供給が滞ることによるお客さまへの影響が最も懸念されます。

この点から、「製品の供給責任」を果たすことが最も重要だと考えています。あわせて、当社の事業活動を支える「グループ社員の安全確保」も同様に重要であり、この2点を当社グループのBCP対策の基本的な課題として位置付け、各種対策に取り組んでいます。

製品の供給責任

製品の供給責任についての基本的な考え方

多くの種類の製品を製造・販売している当社グループにとって、災害発生時におけるお客さまへの製品供給に対して、すべての製品に同様の製品供給の対策を講じることは困難があり、現実的ではありません。そこで当社は、製品の供給が途絶えてしまった場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案して、対策が必要な製品の優先順位をつけてリストアップしています。製品供給の妨げとなる要因を洗い出し、対策を確実に実施することで、製品の供給を確保してまいります。

製造拠点の分散化

当社グループには国内外に多くの製造拠点があります。このネットワークを活用して、一拠点でのみ製造している製品については、海外を含めた製造拠点の分散化を図っています。複数の拠点で製造することで、災害などの影響があった拠点を速やかにバックアップし、安定した供給体制を構築しています。

原材料調達の数化

材料の種類や入手先が限られている原材料については、使用する原材料の数化を進めています。新たな原材料の選定を行い、それらを原材料とした場合の製造条件、製品特性の把握・確認を実施し、現状品との置き換えに問題がないことを確認したうえで使用原材料の数化を実施しています。これらと併せて、購入ルートの数化も進めています。原材料調達の安定化を図ることで、不測の事態が起きた場合の製造に対する影響度の最小化を図っています。

原材料・製品在庫の確保

災害発生などにより、調達に支障が生じると予想される原材料については、在庫の積み増しを実施しています。また、製品については、半製品を含めた在庫量を見直し、製造が停止してしまった場合の影響を最小限にするよう図っています。営業拠点においても、製品在庫量を見直し、物流停止に対する対策を講じています。

製造設備・備品の地震対策

地震によって生じる製造設備のズレ・ゆがみは、製品の寸法精度や特性に影響を与える可能性があります。よってこのようなズレ・ゆがみが発生した場合は、その後に多くの確認・調整作業を必要とするため、製造再開までに時間を要することが懸念されます。これらの対象設備については固定方法の見直しや補強を実施しています。また、資材棚などの倒壊防止へも対策を講じ、地震発生時の被害の最小化に努めています。



2012年、自動車向けガasket材料「メタコート®」の製造ラインの分散化を実施。マレーシアのニチアスFGSでの製造を開始しました。



袋井工場の倒壊防止策を施した保管棚



固定措置を施した製造装置

社員の安全確保

社員の安全確保についての基本的な考え方

不測の事態が発生した時の製品の安定供給はもちろんのことですが、企業活動を支える社員の安全確保も重要な課題です。当社では災害発生時に備えた防災訓練の実施や啓発活動による教育、社員の安否確認の迅速化、防災性の高い建物への変更、防災用具・非常食の備品整備など、日頃の備えを充実し、社員の安全確保への取り組みを進めています。



本社事務所の移転

2013年7月に東京都港区芝大門から中央区八丁堀へ本社を移転しました。耐震性、非常時の電源確保への対策が強化されたビルに移転することにより災害に対する備えを強化しました。災害発生時における社員の安全を確保し、事業活動継続につなげていきます。



新本社ビル

社員安否確認システムの導入

災害発生時に、社員が携帯電話のメール機能を使って会社へ安否報告する安否確認システムを導入しています。災害発生時の使用に支障をきたさないように、定期的な運用訓練を実施しています。

羽島工場管理棟の建て替え

2013年5月に岐阜県にある羽島工場の管理棟を耐震性に優れた建屋に建て替えました。災害発生時の社員の安全を確保し、生産活動の継続につなげていきます。



羽島工場新管理棟

拠点における災害への備蓄品の整備

ニチアスでは、拠点ごとに災害発生時に3分の2の社員が3日間生活できるだけの食料と水を備蓄し、防災用具を整備しています。今後は、当社グループ全体へ展開できるよう整備を進めています。本社ビル勤務者へは「従業員ポケットマニュアル」を配布し、災害発生時の避難経路や退避場所の周知を図っています。



新本社の備蓄倉庫



従業員ポケットマニュアルと防災用具

CSR活動への取り組み

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、社員のみなさまとのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切に、さらにより良い関係の構築をめざしたCSR活動に取り組んでいます。





コーポレートガバナンス

ニチアスは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、グループ会社を含めた企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。

コーポレートガバナンス

企業価値の向上は、公正な企業活動による社会的使命を果たし、ステークホルダーのみならずの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると当社は位置付けています。

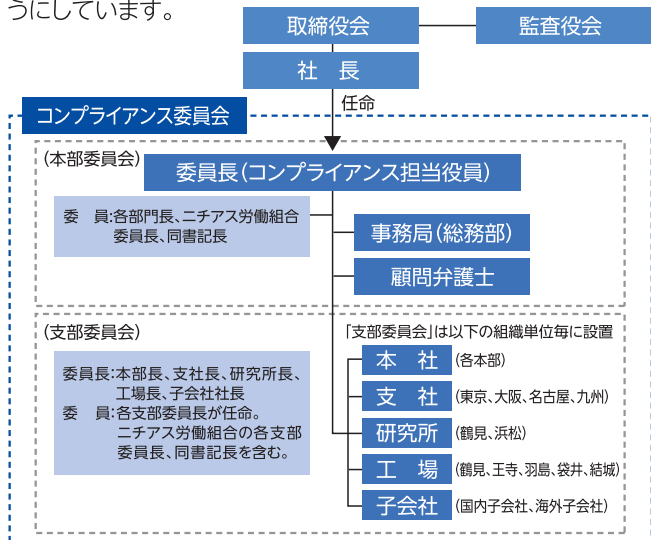
当社の取締役会は、経営上の意思決定を迅速に行うため、当事業に精通した取締役で構成しています。毎月定例日に1回、必要な場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。2012年度は合計15回開催しました。このほか、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経営会議を原則毎週開催しています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、より適切な経営判断および業務執行が可能となる体制を構築しています。

監査役は取締役会、経営会議のほか重要な会議に出席し意見を述べるとともに、取締役の職務執行状況が適正に遂行されているかを監査しています。監査役会は原則毎月1回開催され、2012年度は合計12回開催されました。当社の監査役会は、経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野を持った、自由な立場で意見を述べる事ができる3名の社外監査役とさまざまな当社業務経歴を持つ2名の常勤監査役とによって構成されており、取締役会などにおいて、高い見地から経営に対する積極的な意見表明を行っています。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。

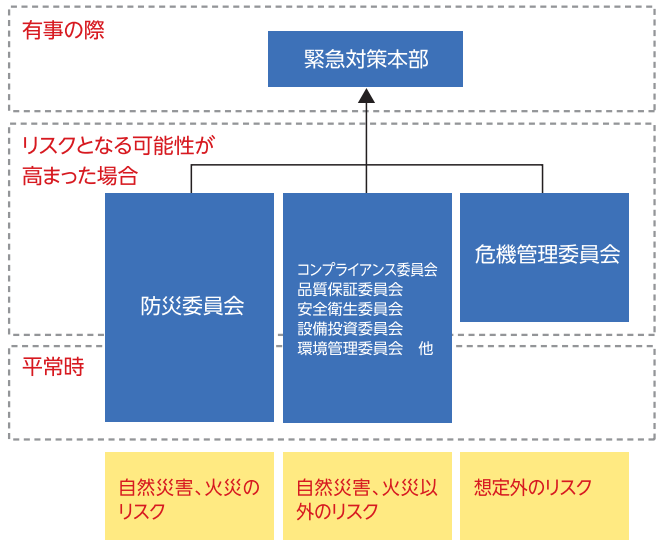
コンプライアンス活動

事業場ごとにコンプライアンス委員会を定期開催し、法令やルールの順守確認とともに、社員を対象とした無記名式定期アンケート調査を実施し、コンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。また通報窓口としてコンプライアンスカウンターを設置。通報ルートは複数用意し、当社Webサイトのトップページからも通報窓口へアクセスできるようにしています。



リスクマネジメント体制

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを安定供給することを社会的使命とし、リスクマネジメントの実践を通じて事業の存続・安定的発展を確保しています。経営上の重大リスクに直面した際には、緊急対策本部を設置し、全社一丸で即応できる体制を整えています。



お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・工法の提供を推進しています。

安全・安心な製品の提供

品質への取り組み

日々製造する製品に対する品質管理はもちろんのことですが、品質クレームの未然防止活動にも積極的に取り組んでいます。特に「人命に関わる事故につながる危険性のある不具合」「環境汚染につながる危険性のある不具合」「危険をとまなう部位・用途に使われ、特別な管理を必要とする製品での不具合」は、お客さまに多大な損害が発生する可能性があり、重大クレームと位置付けています。重大クレームを引き起こす可能性のある製品および工程を洗い出し、その工程での品質づくり込みの条件、作業手順、管理方法の妥当性の確認と見直しを行い、不具合発生を未然に防止する活動を進めています。



日々行われている品質検査

PL(製造物責任)への取り組み

製造物の欠陥によってお客さまの生命・財産に損害を与えることはあってはならないことです。当社では各事業本部を横断的に取りまとめるPL委員会を設置し、それを未然に防止することに積極的に取り組んでいます。ここでは、製品設計時・製品製造時にPLを順守するための仕組みづくりや、製品の梱包における適切な表示内容の決定など、お客さまに当社グループの製品・サービスを安全、安心にお使いいただくためのさまざまな活動を行っています。

マネジメントシステム体制

1996年に羽島工場がISO9002(当時)を取得したのをはじめに、各製造事業場で品質マネジメントシステムの構築を進めています。2013年現在、当社グループの品質マネジメントシステム認証の取得状況は下記一覧のとおりです。製品設計・製造・施工・引渡しにいたるそれぞれの活動において品質を確保し、お客さまに信頼される製品・工法・サービスの提供に最善を尽くしています。

品質マネジメントシステム認証取得事業所一覧

| 事業場 | | 取得日 |
|------------|-------------------|------------|
| 事業本部 | 基幹産業事業本部 工事業本部 | 1997.09.19 |
| 製造工場 | 羽島工場 | 1996.01.31 |
| | 鶴見工場 | 1997.03.14 |
| | 結城工場 | 1997.03.26 |
| | 王寺工場 | 1997.03.27 |
| | 袋井工場 | 1997.03.28 |
| 国内製造子会社 | メタコート工業 | 1997.03.27 |
| | ニチアスセラテック | 1997.10.23 |
| | 国分工業 | 1998.05.15 |
| | 福島ニチアス | 1998.10.01 |
| | 大田化成 | 1999.12.22 |
| | ニチアスメカテクノ | 2000.12.26 |
| | 堺ニチアス | 2007.01.09 |
| | 竜田工業 | 2009.03.13 |
| | 熊本ニチアス | 2009.12.24 |
| 海外製造子会社 | ニチアスFGS | 1997.09.30 |
| | ニチアスメタルワークスインドネシア | 1998.07.29 |
| | ニチアスロックワールインドネシア | 1999.05.08 |
| | ニチアスハイフォン | 2005.01.18 |
| | 蘇州麗佳斯工業製品有限公司 | 2005.02.03 |
| | 蘇州麗佳斯密封材料有限公司 | 2006.01.25 |
| | ニチアスFGS※ | 2009.04.04 |
| | 上海興盛密封有限公司※ | 2009.05.29 |
| | ニチアスチェコ※ | 2009.12.15 |
| ニチアスタイランド※ | 2011.07.11 | |

ISO9001:2008の取得状況を示しています。ただし「※」で示した拠点はTS16949の取得状況を示しています。



株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、健全性・透明性・効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、開示すべき情報を迅速に、かつ適切に開示しています。また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。

株主・投資家とのコミュニケーション

IR活動

当社は、積極的なIR活動によって、情報開示の充実と迅速化を進める一方、投資家の皆さまと活発なコミュニケーションを図っています。例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催しているほか、日常的な面談やミーティングも行っています。2012年度は2回の決算説明会と延べ127件の投資家とのミーティングを行いました。また、国内外の株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションも強化し、幅広い株主層の形成に努めています。

アナリスト向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家の皆さまとの適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決算説明会を開催しています(5月16日44名、11月17日36名参加)。決算説明会では財務情報、事業概要、経営戦略を説明するとともに、経営幹部と投資家の皆さまとの対話にも積極的に取り組んでいます。皆さまからいただいたご意見は、社内で共有し業績向上に役立てています。

お取引先とのコミュニケーション

公正な取引による取引先の選定

当社の事業活動は、多くのお取引先に支えられています。そこで当社では、お取引先の方々に公平な競争機会を提供しています。各お取引先について、製品・サービスの品質や供給能力、財務状況、環境への配慮などを公平にチェックして、評価・選定を行っています。

グリーン調達基準の制定

当社グループは、「環境に配慮したモノづくり」をキーワードに、研究開発から原材料調達、製造、流通、消費、廃棄などの各段階における環境負担が小さい環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。その一環として2005年4月に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。ガイドラインでは、環境負荷物質を選定し、新規に採用する原材料の事前チェックを行っています。環境負荷物質は規制の強化とともに年々追加されますので、定期的に基準の見直しを行っています。



グリーン調達ガイドライン

独占禁止法・下請法順守への取り組み

当社グループは、CSR活動の一環として独占禁止法および下請法の社員教育に力を入れています。独占禁止法については、毎年新入社員研修をはじめとした階層別教育研修のプログラムに盛り込み、また管理職を対象としたeラーニングなどの教育を毎年実施しています。下請法については、各支社および各工場並びに子会社の担当者に下請法順守のための実務面の研修を実施しています。これら研修を通じて、当社グループ全体での法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の社員研修

社員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワーク&ライフバランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。

労働・安全・衛生

安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと安全衛生活動基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組んでいます。当社グループの活動は多岐にわたるため、①グループの全従業員を対象にした活動、②製造工場、製造子会社といった生産部門を対象にした活動、③工事部門を対象にした活動に分けて、継続的な改善活動を推進しています。

メンタルヘルス

自分自身や周囲の者の変調にいち早く気付いて正しい対処ができるよう、メンタルヘルスに関する社内研修を実施しています。さらにメンタルヘルスの専門家である精神科医を産業医として迎え、心の変調をきたした社員の重症化防止や休職した社員の復職支援、再発防止などに努めています。

ダイバーシティ

定年後再雇用制度

当社は定年退職者の再雇用に積極的に取り組んでいます。2013年4月1日より改正高年齢者雇用安定法が施行されましたが、当社は2001年4月から、定年の60歳を迎えた後も本人が希望すれば、原則として年金支給開始年齢（現在は65歳）まで再雇用される制度を導入しています。

定年退職者再雇用率

| 年度 | 2010 | 2011 | 2012 |
|--------|------|------|------|
| 定年退職者 | 42 | 27 | 27 |
| 再雇用希望者 | 30 | 22 | 24 |
| 再雇用者 | 30 | 22 | 24 |
| 再雇用率 | 100% | 100% | 100% |

障がい者の雇用

障がい者雇用率は2010年度から1.9%、1.8%、1.9%と推移しています。2013年4月より法定雇用率が2.0%に引き上げられたのにもない、当社は障がい者の雇用に今後もより積極的に取り組んでいきます。

障がい者雇用率

| 年度 | 2010 | 2011 | 2012 |
|---------|-------|-------|-------|
| 常用雇用者数 | 1,936 | 1,997 | 2,093 |
| 障がい者雇用数 | 37 | 35 | 39 |
| 障がい者雇用率 | 1.9% | 1.8% | 1.9% |

ワーク&ライフバランス

仕事と出産の両立を支援

当社では、育児休業期間を無条件で1年6カ月まで、また、妊娠中の女性についても本人の申し出で時差勤務などを認める「母性保護」を推進。従業員が安心して子育てに専念できる環境づくりに取り組んでいます。

VOICE

多くの方々の支援で 母親業と仕事を両立



技術本部 環境管理室長 戸塚

私は2002年に第一子出産で約1年、2006年に第二子出産で約10ヶ月の育児休業を利用しました。仕事中心の生活から一変し、24時間わが子と向き合えたこと、子育てを通して多くの方々と知り合えたことが大切な思い出です。復帰後は、休暇中に会った友人、家族、それと職場の上司、同僚、部下、その他多くの方々に支えられ、なんとか小学生2人の母親業と仕事の両立(!?)をしており、感謝の気持ちでいっぱいです。

介護の支援／子育ての支援／時差勤務制度

従業員が介護に専念できるよう、当社ではフレックスタイム制度を拡充。小学校3年までの子どもをもつ親についても養育に専念できるよう、勤務時間の短縮や時差勤務制度の拡充を図るなど、従業員や家族の皆さんが安心して生活できるように取り組んでいます。

傷病災害休暇制度

2年経過すると消滅する未使用の年次有給休暇を傷病災害休暇として積み立て、傷病や不慮の災害時に年次有給休暇と同じように使用できる制度です。積み立て可能日数は1年に10日で最大50日です。使用範囲を妊娠によるつわりや通院、家族の介護や支援にも拡大しました。

地域社会とのつながり

ニチアスグループは、国内外にある各拠点において、事業所がある地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域社会に貢献できる活動を展開するとともに、地域で実施される社会貢献活動へ積極的に参加しています。

全国拠点の地域貢献活動

① 本社

「やめよう!歩行喫煙キャンペーン」に参加

2012年4月19日朝に、東京都港区芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会主催の環境美化活動「やめよう!歩行喫煙キャンペーン」に東京本社ビル近郊の社員総勢12名が参加し、喫煙マナーの啓発活動に協力しました。



港区環境美化活動へ参加した社員

本社

周辺地域清掃美化活動

2012年6月6日就業時間後、従業員57名が集まり本社ビル周辺のごみ拾いを実施しました。



本社ビル周辺の清掃・ごみ拾いの実施

本社ほか各事業所

「ライトダウンジャパン2012」への参加

地球温暖化防止のために施設の消灯を呼びかける環境省主催のイベント「ライトダウンジャパン2012」に参加しました。6月21日の20時～22時の2時間、オフィス内の照明や看板など屋外照明をできる限り消灯しました。夏至のライトダウンでは、参加した全26事業所で計146,668kW電力を削減しました。

⑥ 羽島工場

「トンボの花壇」

羽島工場正門から右側に、四季折々の花々が広がる花壇が見えます。工場の緑地スペースを羽島工場総務課が中心となって花壇のデザインを行い、日々手入れをしています。工場の従業員が花を提供することもあります。来工されるお客さまからも好評をいただいております。従業員にとっても憩いの場となっています。



トンボの花壇

⑬ メタコート工業

さまざまな地域貢献活動への取り組み

メタコート工業は自動車用ガasketやブレーキシムの材料である「メタコート®」の製造並びにブレーキシムの部品加工を行う当社の製造子会社です。

メタコート工業では、工場周辺地域での社会活動にも積極的に参加しています。2012年11月13日、工場の土地建物を提供して、地元消防団、岡山市消防署・警察署と共同で救助ヘリまで出動した総勢130人を超えた大規模な防災訓練を実施しました。その他、工業団地内の清掃活動への参加や、夏祭りイベントに参加するなどの地域交流も積極的に進めています。



岡山工場での防災訓練



工業団地内の清掃活動

各事業所での地域貢献活動への取り組み

| 事業所 | 取り組み内容 |
|-------------|--|
| ① 本社 | さまざまな地域貢献活動へ参加(左記掲載) |
| ② 結城工場 | 「下妻市市民清掃デー」(工場周辺の清掃活動)に参加 |
| ③ 美浜事務所 | 地域清掃活動に参加「県道白木線一斉清掃」「クリーン・ザ・シー キャンペーン」「クリーンアップふくい大作戦 in 美浜」「三方五湖一斉清掃」「障がい者作業所(はこべの家)清掃活動」/福井県産業安全衛生大会に参加 |
| ④ 大飯事務所 | 県道清掃を実施/湾岸清掃を実施 |
| ⑤ 高浜事務所 | 県道清掃を実施 |
| ⑥ 羽島工場 | 定期的に工場周辺の清掃活動を実施 |
| ⑦ 袋井工場 | 工場周辺の清掃活動を実施/袋井花火大会会場係および会場の清掃を実施/住民説明会の実施 |
| ⑧ 名古屋支社 | ペットボトルキャップ収集による途上国へのワクチンの寄付活動に参加 |
| ⑨ 豊田支店 | 不要な切手・テレホンカード・携帯電話の回収活動による東北地方への震災支援寄付 |
| ⑩ 王寺工場 | 「王寺町クワイエット・グリーン・サークル(CCC)」(主催:王寺町)に定期的に参加 |
| ⑪ 郡山分工場 | 「大和郡山市クリーンキャンペーン」(主催:大和郡山市)に定期的に参加 |
| ⑫ 大田化成 | 定期的に工場周辺清掃活動を実施/ペットボトルキャップおよびアルミ缶プルトップの回収活動に参加 |
| ⑬ ニチアスセラテック | 定期的に工場周辺清掃活動を実施/ノーマーカーウィーク(長野県主催)に参加/電力ピークカットチャレンジ(長野県主催)に参加/融雪への協力として温水を提供/工場見学会を実施 |
| ⑭ 国分工業 | 「石川・大和川グリーン作戦」(主催:大阪府)に参加 |
| ⑮ 堺ニチアス | 定期的に工場周辺清掃活動を実施/「三宝地区美化活動」(主催:三宝地区自治体と地区内企業の協賛)に参加 |
| ⑯ 電田工業 | 定期的に工場周辺清掃活動を実施 |
| ⑰ メタコート工業 | さまざまな地域貢献活動へ参加(左記掲載) |

● 製造子会社

海外拠点の地域貢献活動

マレーシアのニチアスFGSの建築材料寄付活動

マレーシアにある当社製造子会社であるニチアスFGS(NICHIAS FGS SDN.BHD.)は、建築材料、ふっ素樹脂製品、シール材、自動車部品の製造・販売を行っています。

同社では建築用パネルを近隣のモスク(イスラム教の礼拝堂)や学校などの施設に寄付しています。現地では、ぬかるみになって困っていた地面や排水溝の置き石などに活用されています。



建築用パネルを活かした床・通路

社会とのつながり

ニチアスグループは、社会への貢献および社会とのコミュニケーションづくりを意欲的に推進し、省エネルギー、医療、資源活用をはじめとする多くの領域に貢献できる活動を展開しています。

社会貢献活動

医学研究の支援活動

当社は胸膜、腹膜などの中皮に発生する腫瘍である中皮腫に対する有効な治療方法や新薬開発の支援活動として、大学に対する寄付活動を行っています。

① 東京大学大学院総合文化研究科への寄付講座の設立

当社は2007年4月、東京大学大学院総合文化研究科に寄付講座「中皮腫予防・治療法開発講座」を設立しました。本講座の寄付総額は2億1,800万円(6年間)で、2013年3月に終了しました。この間、ヒト由来の中皮腫培養細胞を用い、細胞増殖・抑制効果を指標に、生体由来因子などの効果をスクリーニングおよびマウスを用いた効果の確認を行いました。

② 千葉大学大学院医学研究院への研究委託

当社は2007年10月、千葉大学大学院医学研究院、医学部附属病院に「中皮腫に対する新規遺伝子医薬品の研究開発」のテーマで委託しました。この研究は総額1億5,000万円で、2015年3月に完了する予定となっています。研究内容は、第1世代の新規遺伝子医薬品と既存の抗がん剤との併用効果を検討し、その後、第2世代、第3世代の新規遺伝子医薬品の研究開発へと移行する内容となっています。

経済産業省からの表彰

当社は2012年11月、社団法人産業環境管理協会主催の「平成24年度資源循環技術・システム表彰」において「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞しました。

今回の受賞は、廃棄物・副産物を主原料とするけい酸カルシウム板「エコラックス®」の開発を行い、その普及を図ったことが、循環型社会の構築に大きく貢献したとして評価されました。



経済産業省産業技術環境局長から賞状を授与される
当社代表取締役専務 米澤 靖男

広島大学大学院、マレーシア工科大学への マレーシアの住宅断熱の研究に関する助成

当社はマレーシアに子会社があることが縁となり、2012年度から広島大学とマレーシア工科大学が共同で進めているマレーシア住居の快適性と省エネルギーを両立するプロジェクトの支援を行っています。

本研究の助成総額は2,000万円で、2015年度までの実施予定です。本プロジェクトでは、現地調査による状況把握、快適性指標の研究を行い、シミュレーションによる快適・省エネ住居を設計する予定です。2014年に実験住宅をマレーシア工科大学に建設し、将来は大学の教育、人材育成に役立てる予定です。

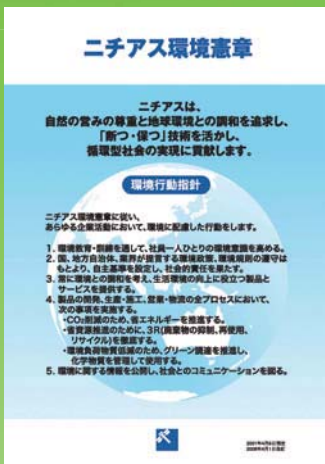


2015年に完成予定の2階建テラスハウス

環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全などお客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。

ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。



【ニチアス環境憲章】

ニチアスは、自然の営みの尊重と地球環境との調和を追求し、「断つ・保つ」技術を活かし、循環型社会の実現に貢献します。

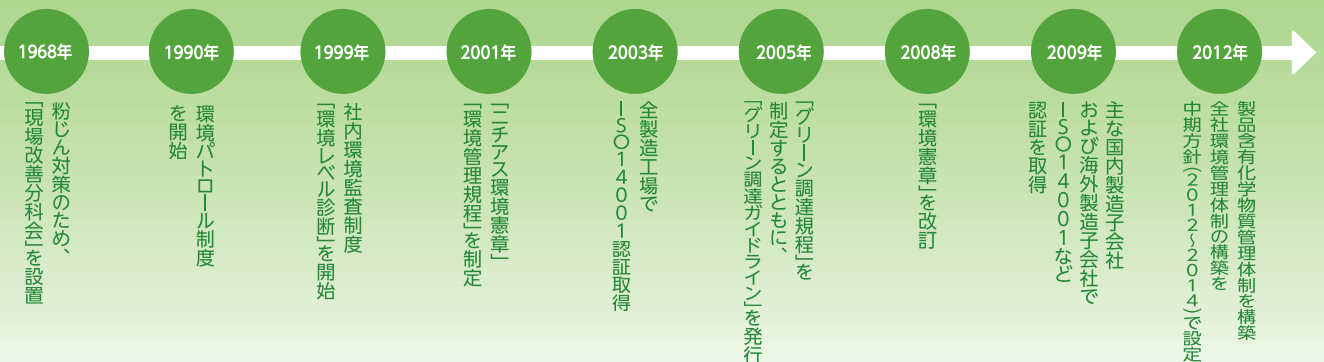
【環境行動指針】

ニチアス環境憲章に従い、あらゆる企業活動において、環境に配慮した行動をします。

1. 環境教育・訓練を通して、社員一人ひとりの環境意識を高める。
2. 国、地方自治体、業界が提言する環境政策、環境規則の遵守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たす。
3. 常に環境との調和を考え、生活環境の向上に役立つ製品とサービスを提供する。
4. 製品の開発、生産・施工、営業・物流の全プロセスにおいて、次の事項を実施する。
 - ・CO₂削減のため、省エネルギーを推進する。
 - ・省資源推進のために、3R(廃棄物の抑制、再利用、リサイクル)を徹底する。
 - ・環境負荷物質低減のため、グリーン調達を推進し、化学物質を管理して使用する。
5. 環境に関する情報を公開し、社会とのコミュニケーションを図る。

環境活動の歩み

当社グループでは、早期から環境パトロールやレベル診断など、独自の方法で環境問題へ取り組み、管理・対策などを実施し、環境負荷を低減してきました。これからも幅広い分野に目を向け、持続可能な社会の構築に貢献し続けます。





環境マネジメント

さまざまな環境課題に積極的に取り組むとともに、環境経営の実現をめざし全社マネジメントシステムの構築を推進しています。

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、中期方針(2012年度～2014年度)を策定しました。中期方針では「環境経営」「環境啓発」「コンプライアンス」「環境負荷削減」「環境コミュニケーション」の5分野で課題設定をしています。本方針では、全社環境

活動をより効果的に推進するため、「環境マネジメントシステムの構築」を最重要課題としています。2012年度は全社システム構築に先立ち、「ISO14001工場統合認証」の準備を重点的に進めました。

中期方針に基づく2012年の目標と実績

| | | 中期方針 (2014年度目標) | 2012年度目標 | 2012年度実績 | 評価 | 2013年度目標 |
|-------------|------------------------------|---|---|--|----|--|
| 環境経営 | 環境管理体制の構築 | 全社環境マネジメントシステムの構築 | システム構築に向けた基盤整備 | 全社環境マネジメントシステム構築に先立ち、ISO14001工場統合認証のための体制構築 | ● | ISO14001工場統合認証 全社環境マネジメントシステム体制・規程づくり |
| 環境啓発 | 社員の環境意識向上 | 全社員への定期環境教育の推進と維持 | 教育資料(eラーニング)の作成 | 特定内容(欧州REACH規則対応、産業廃棄物)の教育資料作成 | ▲ | eラーニング教育の実施 環境ボランティアの実施 |
| | | | 部門別環境教育の維持推進 | 研究・営業・管理部門で実施したが、事業部門で未実施 | ▲ | ニーズにあった部門別環境教育の維持推進 特定業務者への環境教育の実施 |
| | | | 工場雇入時の環境教育ガイドの作成 | 教育ガイドを作成したが、未実施 | ▲ | |
| コンプライアンス | 事業場のコンプライアンス | 全事業場における環境法規の順守の徹底 | 製造拠点における環境法規の順守徹底 | 人事異動、契約時などの変化点で法順守を維持できる仕組み化 | ● | 2012年度に引き続き、その他の変化点で法順守できる仕組みづくりを実施 |
| | | | 支社/支店/営業所の環境法規順守確認 | 廃掃法・消防法関連で確認 廃棄物置場の不備などを確認 | ● | 2012年度指摘事項を是正するとともに、廃棄物担当者への教育を実施 |
| | 製品のコンプライアンス | 製品環境法規の順守徹底 | 製品含有化学物質管理体制の運用 | 7月より正式運用開始 製品ごとに含有化学物質表を作成し、法適用有無を新規・変更時に確認 | ● | 製品含有化学物質管理体制の維持 製品含有物質表に基づくラベル・SDSの改訂 |
| | | 顧客グリーン調達への対応体制構築 | グリーン調達対応体制の維持・支援 | 一部特定顧客向けの化学物質管理を開始 | ▲ | 原料管理の徹底 |
| 環境負荷削減 | CO ₂ 削減 省エネルギー | CO ₂ 排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比3%削減 | 製造事業場のCO ₂ 排出量生産高原単位を2011年度比1%削減 | 製造事業場のCO ₂ 排出量生産高原単位を2011年度比14%増加 | ▲ | CO ₂ 排出量生産高原単位を2011年度比2%削減 |
| | 産業廃棄物削減 | 産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減 | 製造事業場の産業廃棄物排出量生産高原単位を2011年度比1%削減 | 産業廃棄物排出量原単位2011年度比4.8%削減 | ● | 産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減 |
| 環境コミュニケーション | 情報公開 | 情報公開の維持・推進 | 「環境報告書」の発行維持 | 第9回の「環境報告書」を発行 | ● | CSR報告書の発行 |
| | 地域と製造事業場の共生 | 再発苦情の撲滅 | 環境パトロールの有効活用 | マンネリ化防止のため、パトロール方法を変更 新たに増加した指摘に対応 | ● | 再発苦情撲滅のための方策づくり |

環境管理推進体制

環境経営への転換を目的として2011年度より全社環境推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会の下に「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。2012年度は、2014年の全社環境マネジメントシステムの構築を達成するため、最初の課題となる「ISO14001工場統合認証」に向けて「工場部会」で重点的に検討を重ねました。

各製造事業場では、ISO14001認証を取得し、環境管理を推進しています。

環境管理推進体制図



ISO14001取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/index.html>

環境監査体制

製造事業場では、①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2012年度は新たに本社・支社・支店・営業所での環境法規適合監査を開始しました。なお、ISO14001の第三者審査および内部監査の結果、敷地境界騒音の一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は193百万円(前年度比61百万減)でグループ全体の設備投資額の2.9%に当たります。環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は452百万円(前年度比6百万増)でした。これらのコストは、大気汚染、水質汚濁、悪臭などの公害防止、産業廃棄物処理、環境負荷監視などにもなうものでした。

注1:環境保全設備投資金額:当社グループ全体を集計対象

注2:環境保全コスト:当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2012年度) (単位:百万円)

| 分類 | | 金額 |
|-----------|-----------|-----|
| 事業エリア内コスト | 公害防止コスト | 91 |
| | 地球環境保全コスト | 85 |
| | 資源循環コスト | 13 |
| 管理活動コスト | | 4 |
| 合計 | | 193 |

環境保全コスト(当社製造工場/2012年度) (単位:百万円)

| 分類 | | 金額 |
|-----------|-----------|-----|
| 事業エリア内コスト | 公害防止コスト | 223 |
| | 地球環境保全コスト | 2 |
| | 資源循環コスト | 158 |
| 管理活動コスト | | 69 |
| 合計 | | 452 |

環境教育・啓発

環境教育活動

2012年度は新入社員を対象とした環境教育に加えて、研究所員や営業担当に環境教育を実施しました。研究所では最近の化学物質規制や環境法規の動向を、支社・営業所ではSDS(安全データシート)の発行義務など製品販売時の環境コンプライアンスに重点を置いた内容としました。

環境リスクマネジメント

製品含有化学物質管理への取り組み

製品の設計開発から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを進めています。2012年度は2011年度に整備した「製品含有化学物質の管理体制」の運用を開始しました。今後は全製品の「製品含有物質表」を2017年をめどに整備します。また、SDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまに提供する資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みを整備しました。

環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。パトロールでは従業員が事業場の周囲を歩いて「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を確認しています。パトロール員の指摘のうち、地域の方への影響が大きいものから課題に設定し、その改善に努めています。2012年度はチェックシートを改訂するとともに、新鮮な目でパトロールができるようパトロール員を毎回変更するなど工夫を行いました。

外部からの指摘

2012年度は、製造事業場から発生する臭気・排煙や騒音についてグループ全体で8件の指摘を受けました。本年度は指摘への調査・改善を行うとともに、過去に受けた指摘の改善を継続的に実施しています。さらに本年度は新たな取り組みを2点実施しました。地域の方からいただいた指摘の対応経過や改善策などを、関係自治体を通じて通知する方法を検討し、情報公開に努めました。

また、製造事業場に隣接する地域に新たな住宅が建築予定であることから、外部騒音への予防的な取り組みとして、建築予定地での騒音レベルをシミュレートし、防音方法の検討を行いました。

環境啓発活動

環境啓発活動としては、環境情報新聞「ニチアスエコPOST」(月刊)を発行し、社内外の環境情報を全社員に発信しています。また毎年6月の環境月間には環境川柳を募集しています。これらの活動を通じて、社員一人ひとりが環境に対する意識を高めていくことを意図しています。

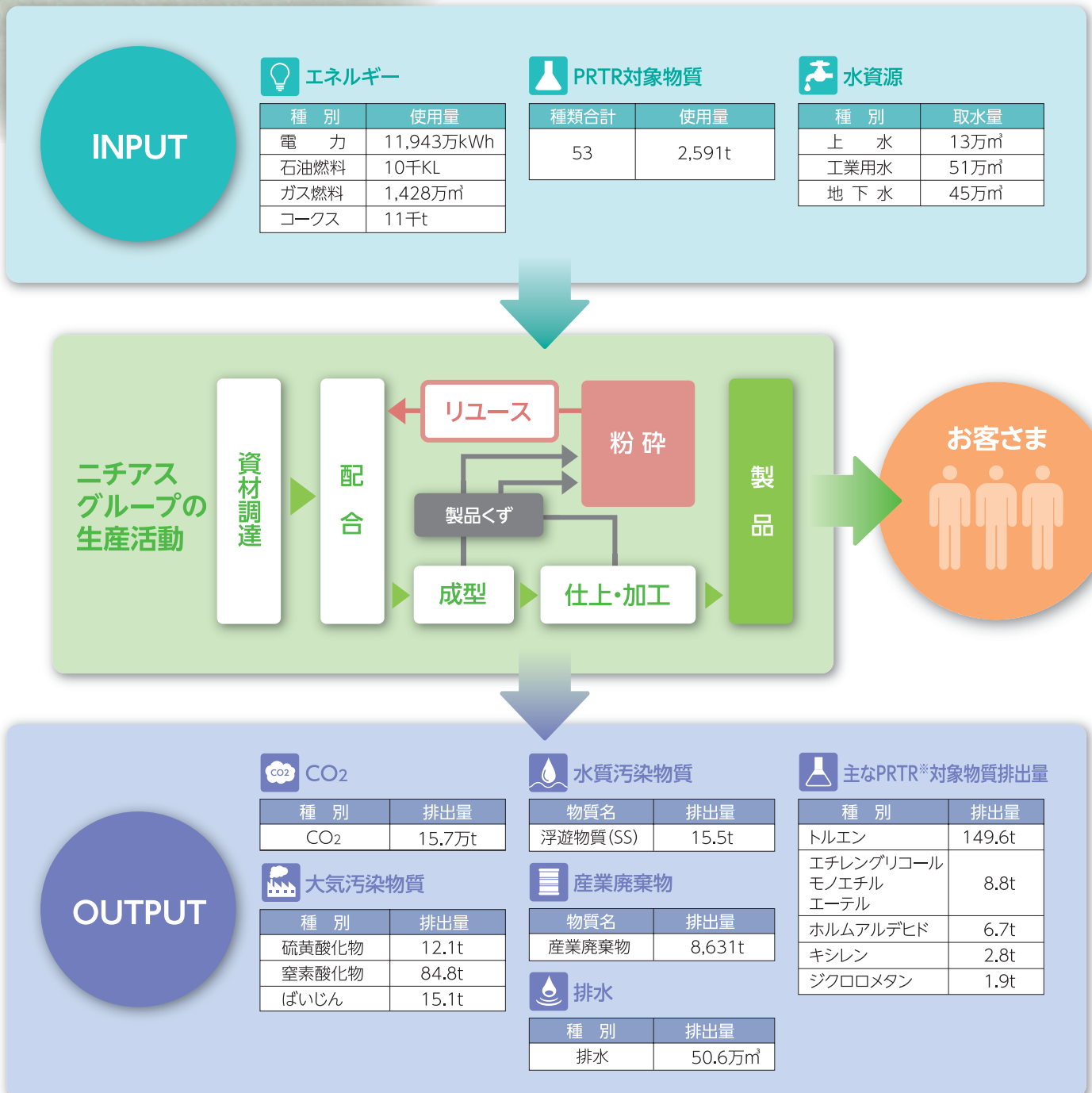
環境パフォーマンス

持続可能な社会の構築に向けて
環境負荷物質低減への取り組みを強化しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともに、それらの削減に向けた具体的

な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の低減に取り組んでいます。



*特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律

CO₂排出実績

当社グループは2014年度末に向け、CO₂排出量生産高原単位3%削減(2011年度比)を目標に活動しています。

2012年度は生産量の減少にともない、エネルギーの使用量は減少しました。一方、CO₂排出量は16.1万t-CO₂(うち製造事業場は15.7万t-CO₂)となり、前年比0.5万トン増加し、CO₂排出量生産高原単位も14%増加となりました。これは東日本大震災の影響により電力のCO₂排出係数が平均1.2倍程度アップしたことが大きく影響しています。各事業場では、省エネタイプの設備導入を推進するとともに、事業場内の適正エア量を把握し、コンプレッサーの台数制御に取り組みました。また、定期的に省エネパトロールを実施し、コンベアなど設備の空転、エア漏れ、蒸気漏れなどのエネルギーロスの早期発見と改善に努めています。

不要物・産業廃棄物排出実績

事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量11,045tで前年度比4,129tの削減、また産業廃棄物の排出量は8,631tで前年度比4,402tの削減となり、いずれも前年度より減少しています。

これは生産量の減少にともなう部分もありますが、各拠点で実施した製造歩留まり改善、製品不良率低減活動により大幅に減量しています。なお、これら産業廃棄物と不要物から再資源^{注2}として利用されたものは59.1%となりました。

注1:グループから排出される有価売却物を含む廃棄物

注2:最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価物売却されたものを再資源化と定義

PRTR対象物質排出実績

事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は2,591tで、前年度より673tの増加となりました。一方、大気への排出量は173tで前年度の211tより38t削減となりました。このうち主な排出物であるトルエンの大気への排出量は150t(前年度比45t削減)となりました。これはメタコート工業岡山工場2011年度に実施した排ガス処理方法の改善の効果が大きく現れたものです。

また、2012年度まで使用していたテトラクロロエチレン^{注3}については、代替化を促進し、テトラクロロエチレンを含まない製品を開発し、販売しました。その結果、当社としてのテトラクロロエチレンの使用量はゼロになりました。

注3:PRTR法および化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)の対象物質

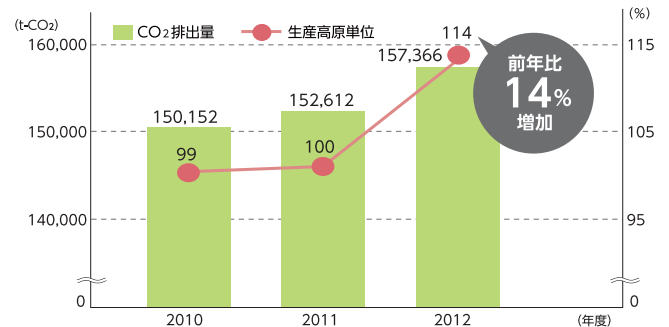
CO₂排出抑制の取り組み目標

2014年度末までにCO₂排出量
生産高原単位
2011年度比3%削減



2012年度実績
2011年度比
14%増加

CO₂排出量および生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



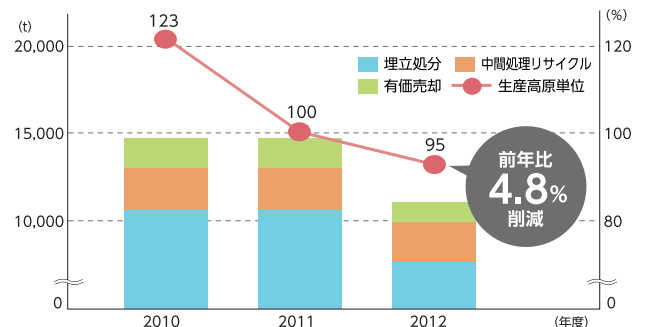
不要物・産業廃棄物削減の取り組み目標

2014年度末までに産業廃棄物排出量
生産高原単位
2011年度比 5%削減



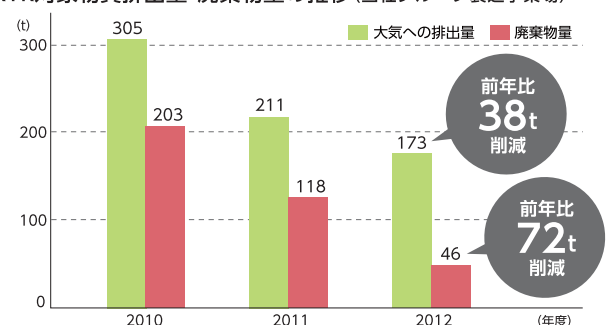
2012年度実績
2011年度比
4.8%削減

不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



※生産高原単位の算出:2011年度(臨時廃棄物2,520tを除く)を基準年として算出

PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移(当社グループ製造事業場)



みんなで力を合わせて工夫・改善!!

～ 地域・地球環境と共存した生産活動のために～

ニチアスグループでは安全・環境・品質を最優先に、生産性向上・コスト削減活動を実施しています。
環境改善活動においては、地球環境との共生とともに、
製造事業場をとりまく地域の皆さまとの共生をめざして活動を進めています。

製造事業場の環境改善活動

環境マネジメントプログラム
省エネ・省資源活動
TPS 活動



環境負荷物質削減

長年の課題達成! さらなる改善へ 王寺工場

王寺工場では、配管接合部に用いて流体の漏れを防止するゴム質ガスケット(ジョイントシート)を製造しています。ジョイントシート製造時には、ゴム溶解のため、トルエンを大量に使用します。使用したトルエンは溶剤回収装置で再利用しますが、一部は大気に漏洩したり、製品くずに混じって廃棄処理されます。製品くずはトルエンを含むため、管理型産業廃棄物として処分をしていました。

2012年度はこの製品くず中のトルエンの回収方法を検討し、対策を実施しました。具体的には、オートクレーブに製品くずを入れ、中に含まれるトルエンを蒸発・分離回収する方法を採用。これにより、製品くずの産業廃棄物の区分が管理型から安定型に変更になり、製品くず

からのトルエン放出がなくなりました。また、トルエンは回収後に再利用をすることで使用量を半期で約9トン削減することができました。



王寺工場
ジョイントシート製造スタッフ

省資源

廃棄物を324t削減できました! 結城工場

結城工場ではビルやマンションなどに不燃建材として使用されるけい酸カルシウム板を製造しています。ボードは主原料のけい酸質原料、石灰質原料、再生材を混合後、抄造し蒸熱反応後に乾燥して仕上げます。製品のうち表面塗装が必要なものは研磨をして表面を平らにしなければなりません。本工程では研磨粉が廃棄物になり、研磨時間が長ければ生産性の低下につながります。これらの対策のため、研磨作業を少なくする活動を開始しました。削りしろを少なくするためには製品の厚みのムラをなくす成型条件が必要です。

原料投入方法などを改善した結果、一定の厚みの製品を安定して製造できるようになりました。これにより生産性が大幅に改善し、産業廃棄物の研磨くずを324t削減することができました。



結城工場 建材製造スタッフ

VOICE



吉木

左より
王寺工場
小崎、中村、茶本

環境負荷物質の低減は、地域と共存するための重要な課題であり、中でも影響の大きいトルエン排出量の削減は王寺工場の長年の課題でした。これまでに回収装置の吸着効率の最適化や回収フードの改善などを通じ、最大排出時の50%まで減らしています。その中で製品くずからの溶剤回収を何度も検討しましたが、回収時にトルエン蒸気が高濃度になると火災につながるおそれがあるため、安全性を考慮して実施は見送ってきました。

製品くずからの溶剤回収の再挑戦は、既設の溶剤回収装置の構造と機構の技術習得から開始。既設装置では活性炭に吸着したトルエンを、水蒸気を吹き込むことで脱離させ、凝縮・分離の後に回収していますが、この方法が安全回収の要だと気づき、方策を決定しました。設備化にあたっては蒸気圧力や時間、分離装置の設計など多くの課題がありましたが、試行錯誤の結果、回収条件を確立し、現在は安定状態で製品くずからトルエンを回収できるようになりました。我々スタッフ一同、今後もトルエン回収率アップに向けて活動していきます!

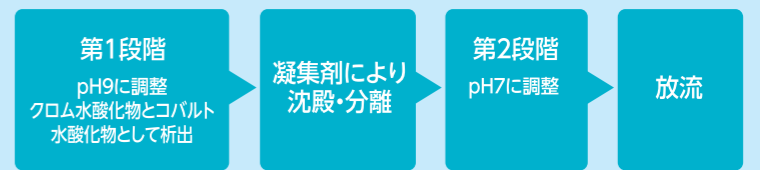
騒音 地域の声を改善の糧に ニチアスセラテック

ニチアスセラテックでは、工業用の断熱材を製造しています。製造設備を新規に稼動したところ、近隣にお住まいの方より、夜間継続的にうるような音がするとのご指摘を受けたことから、原因設備の調査と防音対策を実施しました。原因はバーナー出力が下がったタイミングで発生する共鳴音が排気煙突から漏れたことにより、排気口は工場壁面上部にあり、敷地内では建物と屋根に遮られるため、従業員は指摘を受けるまで異音に気づきませんでした。対策としては、煙突高さの調整、消音器と防音壁を設置し、周辺に異音が伝播しない対策を実施しました。対策後は指摘の音がなくなったことを住民の方と一緒に確認しました。現在、排気口の騒音状況は定期的に確認しています。

排水 知恵をしぼって迅速な排水改善! ニチアスメタルワークスインドネシア(NMI)

NMIでは、フリーアクセスフロアの支持脚を製造しています。支持脚は腐食防止のため外部会社でクロメート処理をしていましたが、社内処理を導入するにあたり、6価クロムの環境影響・有害性を考慮して3価クロムによる処理を採用しました。設備導入にあたり、インドネシアのコバルト排水規制に対応する必要がありました。そのままではコバルトを処理できないため、対策を検討し、調査を進めたところ、排水処理を2段階にすることで現状設備でも除去できることがわかりました。まず、一番目の処理槽で酸性の化成処理排水をアル

カリ(pH9程度)にすると、排水中のクロムとコバルトはクロム水酸化物とコバルト水酸化物として析出されます。これを沈殿させて固形分として除去。二番目の処理槽でアルカリ性排水をpH調整し排水します。この処理により、コバルト濃度は排水基準値以下となりました。



ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号
TEL 03-4413-1194 (経営企画部 広報課)
<http://www.nichias.co.jp/>

表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。環境報告書として発行していた環境報告書2011より、トンボをテーマにした表紙写真を当社グループ内の従業員から公募し、掲載しています。本年の応募者数は35名でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。



撮影者のコメント

庭先で草むしりをしていたら、桔梗の花の上で羽を休めているトンボが目に入り、慌てて趣味のカメラを取り出しシャッターを切りました。震災の被害を受けたこの地(福島県相馬市)にも平凡な日々が、近いうちに来るような気がして和んだひと時でした。震災の時には、皆さまの温かいご支援をいただきありがとうございます。

福島ニチアス 阿部

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 313.1g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト(自然エネルギー事業)によって削減されたCO₂排出権を購入することで、印刷物制作において排出されたCO₂を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現像液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉱物油を使用せずにVOC(揮発性有機化合物)を含まない100%植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



京都議定書の目標である「温室効果ガス6%削減」のためには、国内森林で「3.9%吸収」の実現が必要です。国産材を積極的に使うことはCO₂を吸収する森の育成に貢献できます。この冊子の制作には、国産材が製紙原料として活用されています。



LC-CO₂に関しては、左記QRコードからご覧いただけます。

この印刷物に記載されている情報の全部または一部について、当社に無断で複製、複製、模倣、流用、転載すること、および磁気媒体または光記録媒体に入力することは固くお断りします。